

# 令和7年（2025年）の中之島の火山活動

福岡管区气象台  
地域火山監視・警報センター  
鹿児島地方气象台

火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

## ○ 噴火警報・予報の状況、2025年の発表履歴

2025年中変更なし	噴火予報（活火山であることに留意）
------------	-------------------

## ○ 2025年の活動概況

### ・噴煙など表面現象の状況（図1、図2-①③、図3）

御岳<sup>おたけ</sup>火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上100m（2024年：100m）まで上がりました。

4月24日に山上で実施した現地調査では、御岳火口内斜面で複数箇所からの白色噴煙、及び同火口内斜面や火口底で地熱域を確認しました。前回の観測（2024年12月10日）で火口底にみられた噴気孔は火口底に形成された水溜まりに水没し、確認できませんでした。地熱域の分布は、前回の観測と比較して特段の変化はみられませんでした。御岳火口内南側斜面の噴気孔において噴気音を確認しました。

4月25日に山麓から実施した現地調査では、火口縁を越える噴煙は確認されませんでした。御岳北東側斜面において高さ約50mの噴気を引き続き確認しました。御岳北東側斜面及び火口東側山頂付近の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

### ・地震や微動の発生状況（図4）

広域地震観測網において、島内に震源が求まる地震は少ない状況でした。長期的には御岳山体付近が震源と考えられる地震が時々発生しています。

### ・地殻変動の状況（図5、図6）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

### ・火山ガスの状況（図2-②④）

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁が実施した観測では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり10～70トン（2024年：10～40トン）でした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、十島村及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『電子地形図（タイル）』を使用しています。



図1 中之島 御岳の状況（12月7日、寄木監視カメラ）

御岳火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上100m（2024年：100m）まで上がりました。  
 噴煙の状況は、毎日08時30分及び14時30分に監視カメラで観測しています。

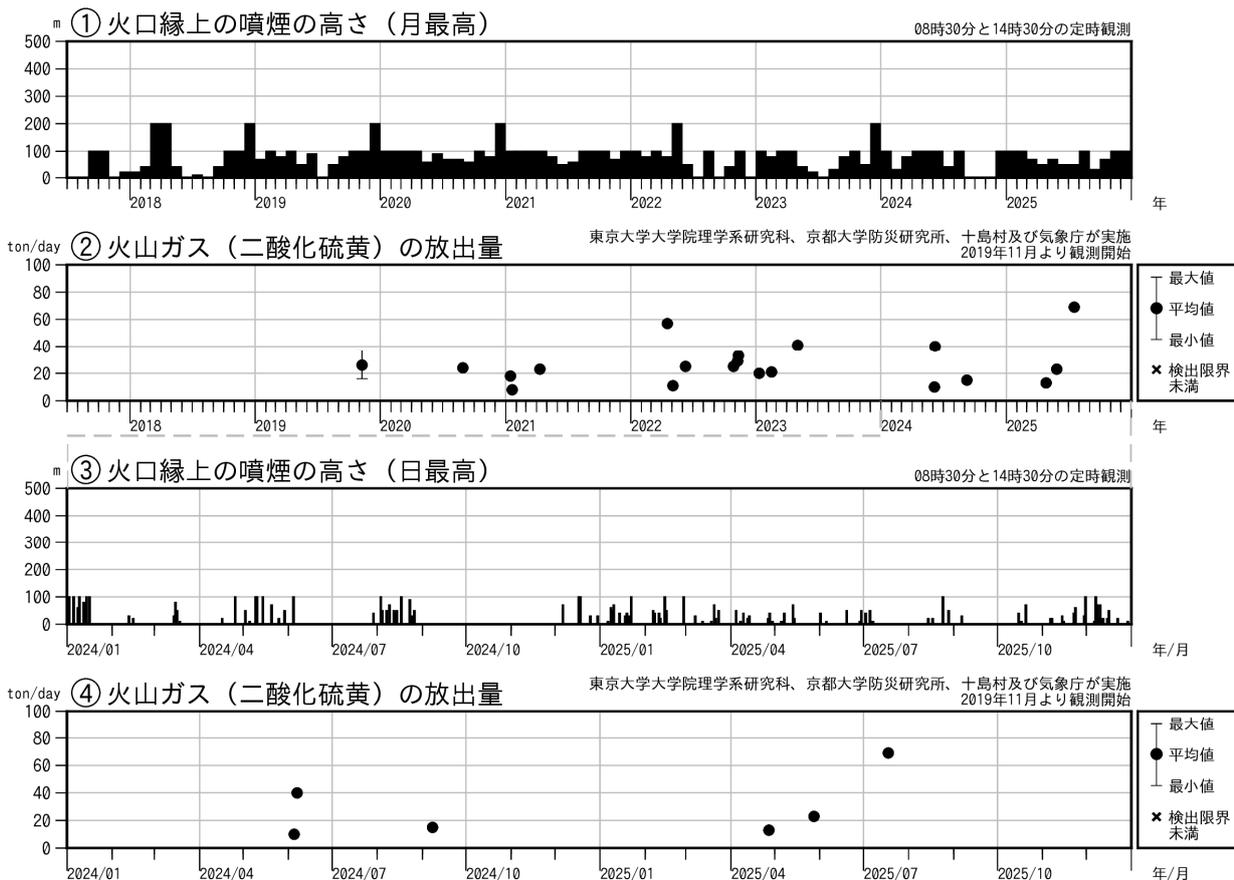


図2 中之島 火山活動経過図（2017年7月～2025年12月）

<2025年の状況>

- ・ 御岳火口では白色の噴煙が最高で火口縁上100m（2024年：100m）まで上がりました。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、今期間、一日あたり10～70トン（2024年：10～40トン）でした。

噴煙の状況は、毎日08時30分及び14時30分に監視カメラで観測しています。

2024年8月29日から12月3日及び2025年9月10日から10月14日は、寄木カメラ障害のため噴煙の最高高度が観測できていない可能性があります。

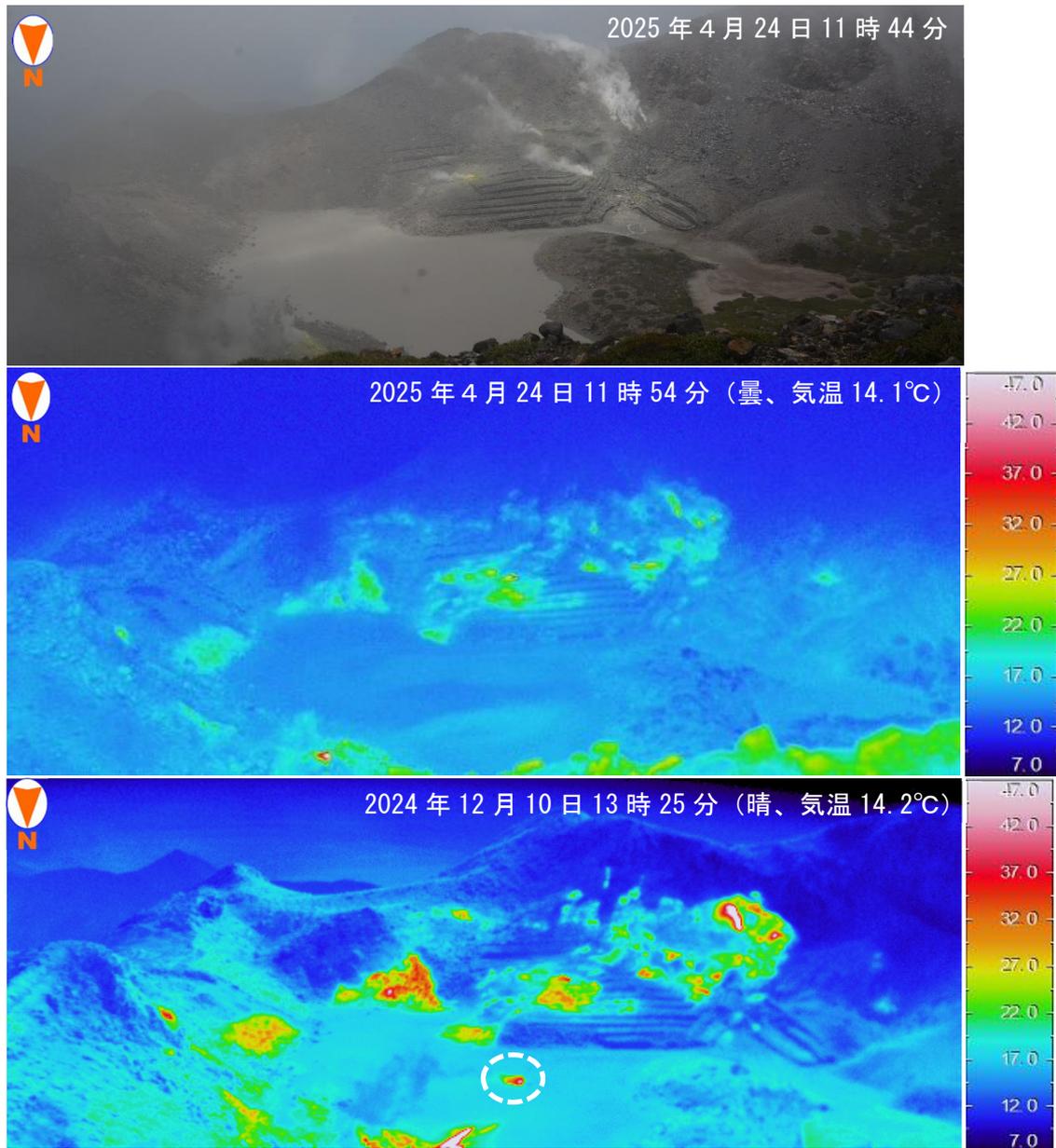


図 3-1 中之島 御岳南側火口壁内の状況（御岳火口北側から撮影）

- ・ 4月24日に山上で実施した現地調査では、御岳火口内斜面で複数箇所からの白色噴煙、及び同火口内斜面や火口底で地熱域を確認しました。
- ・ 前回の観測（2024年12月10日）で火口底にみられた噴気孔（白色破線内）は火口底に形成された水溜まりに水没し、確認できませんでした。
- ・ 地熱域の分布は前回の観測と比較して特段の変化はみられませんでした。
- ・ 火口内南側斜面の噴気孔において噴気音を観測しました。

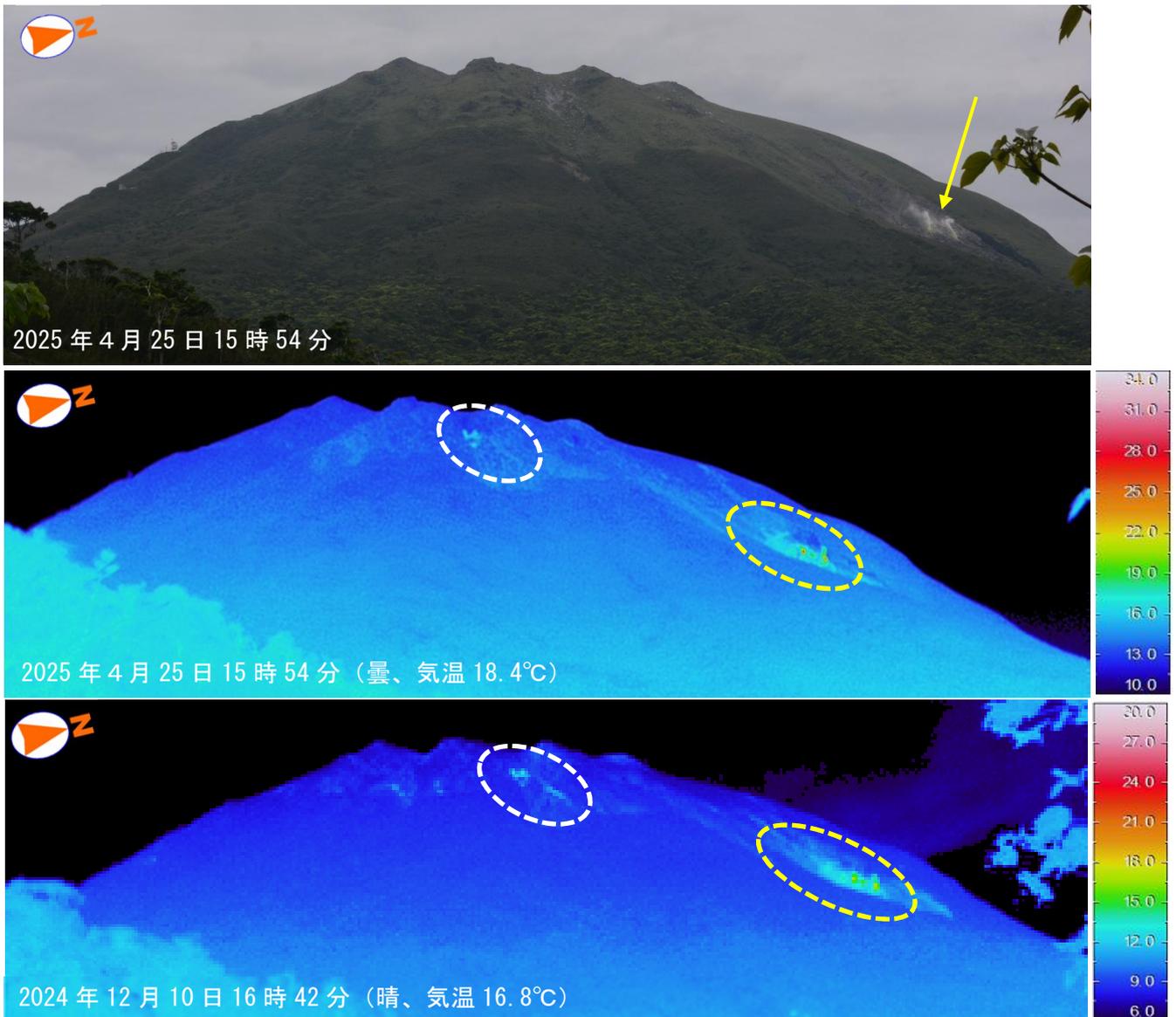


図 3-2 中之島 御岳東～北東側斜面の状況（御岳東側山麓から撮影）

- ・ 4月25日に山麓から実施した現地調査では、火口縁を越える噴煙は確認されませんでした。御岳北東側斜面において高さ約50mの噴気を引き続き確認しました（黄色矢印）。
- ・ 御岳北東側斜面（黄色破線内）及び火口東側山頂付近（白色破線内）で引き続き地熱域を観測しましたが、特段の変化は認められませんでした。

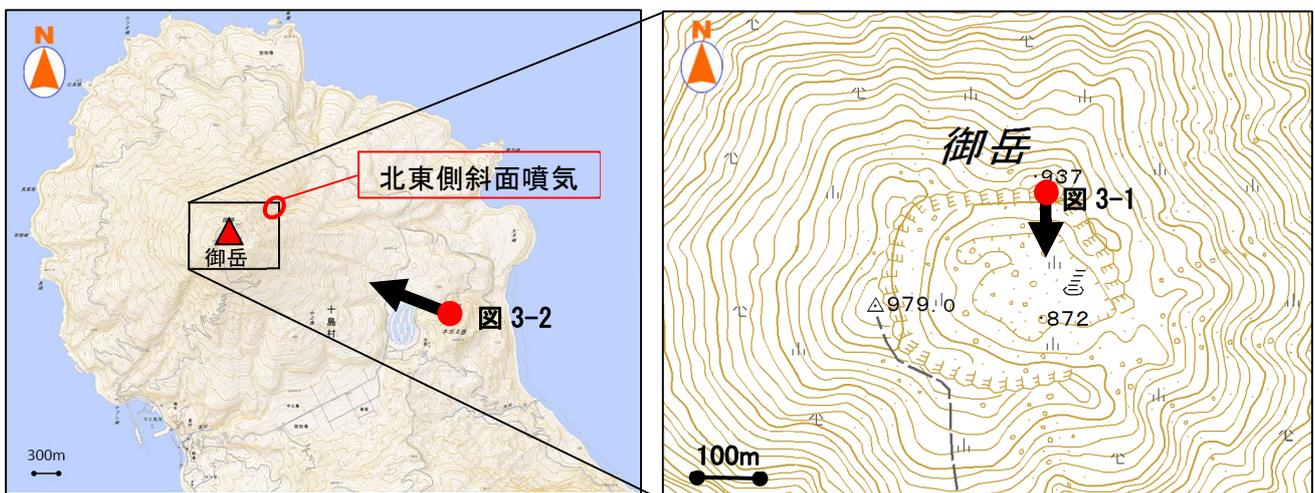


図 3-3 中之島 現地調査観測位置図（観測位置及び撮影方向）

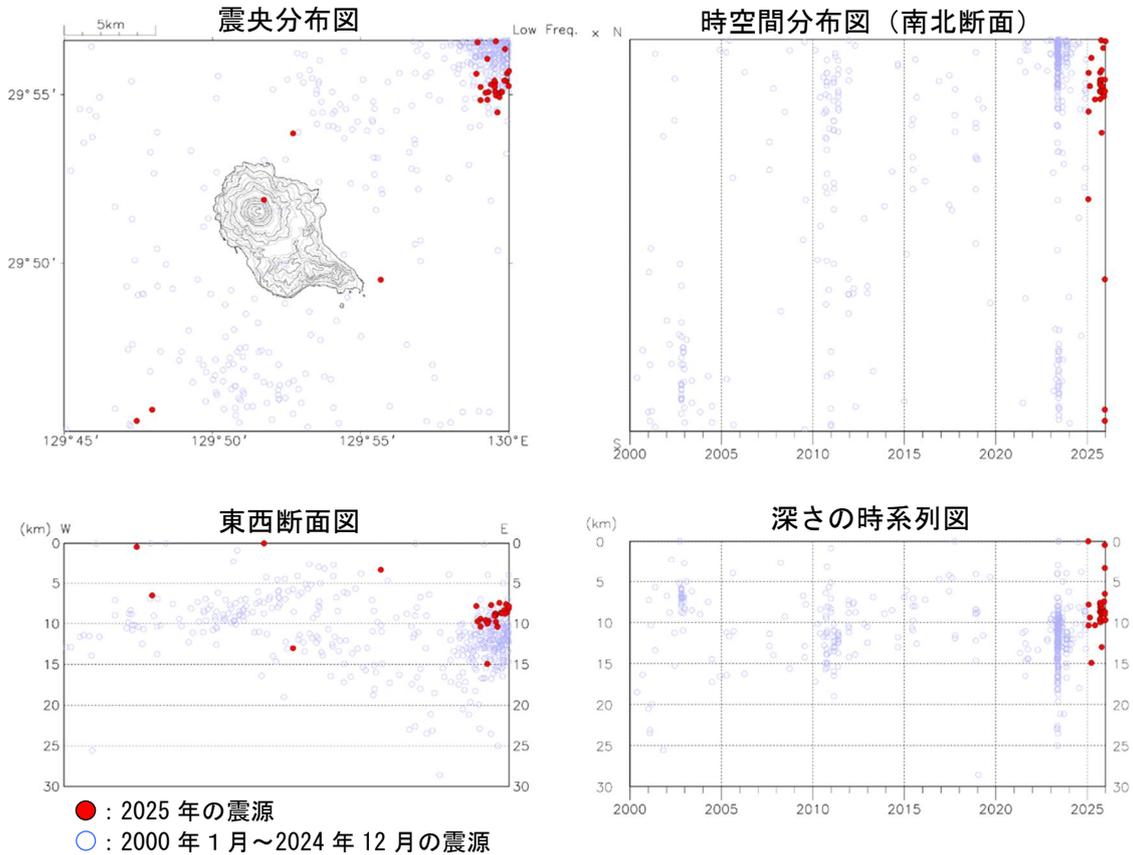


図4 中之島 中之島周辺の震源分布図 (2000年1月~2025年12月)

<2025年の状況>

広域地震観測網において、島内に震源が求まる地震は少ない状況でした。

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。なお、2020年9月以降については、地震観測点の標高を考慮する等、震源決定の手法を変更しております。

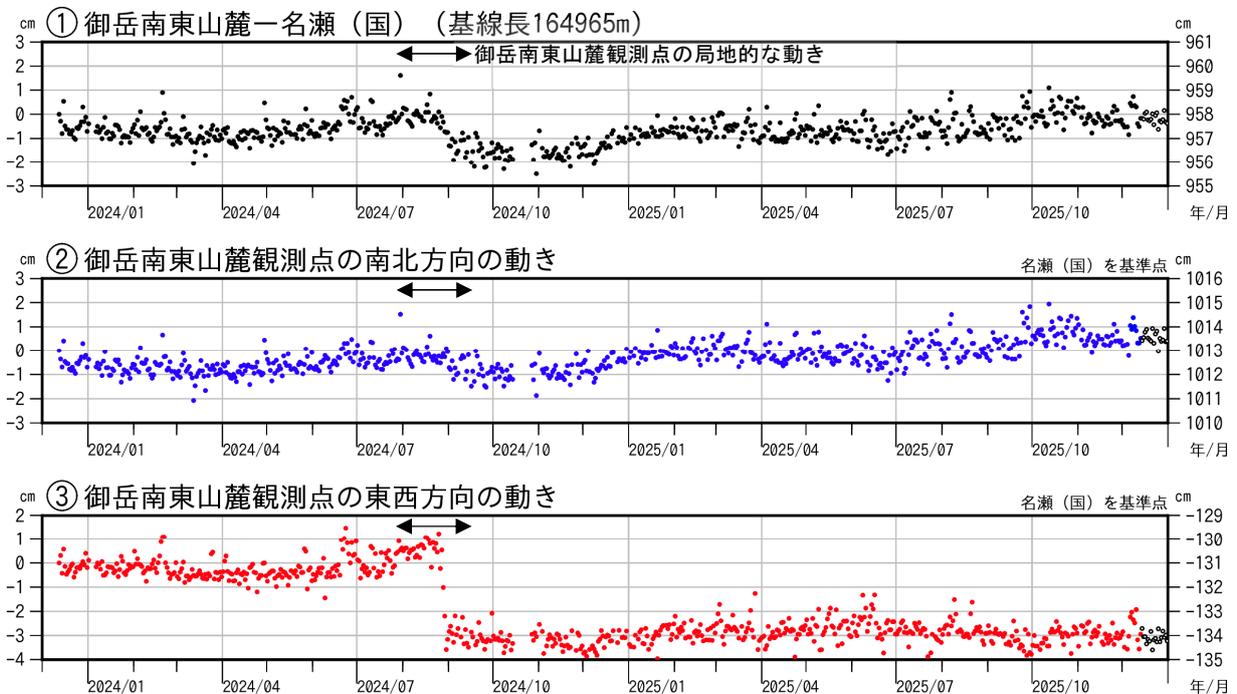


図5 中之島 GNSS連続観測 (2023年12月~2025年12月)

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

基線は図6の①に対応しています。

基線は島外の観測点(名瀬(国))を基準としています。

直近の白丸は速報的な解析結果であり、再解析により修正されることがあります。

基線の空白部分は欠測を示しています。

2025年12月6日の観測点更新(御岳南東山麓観測点)に伴うステップを補正しています。

(国) : 国土地理院

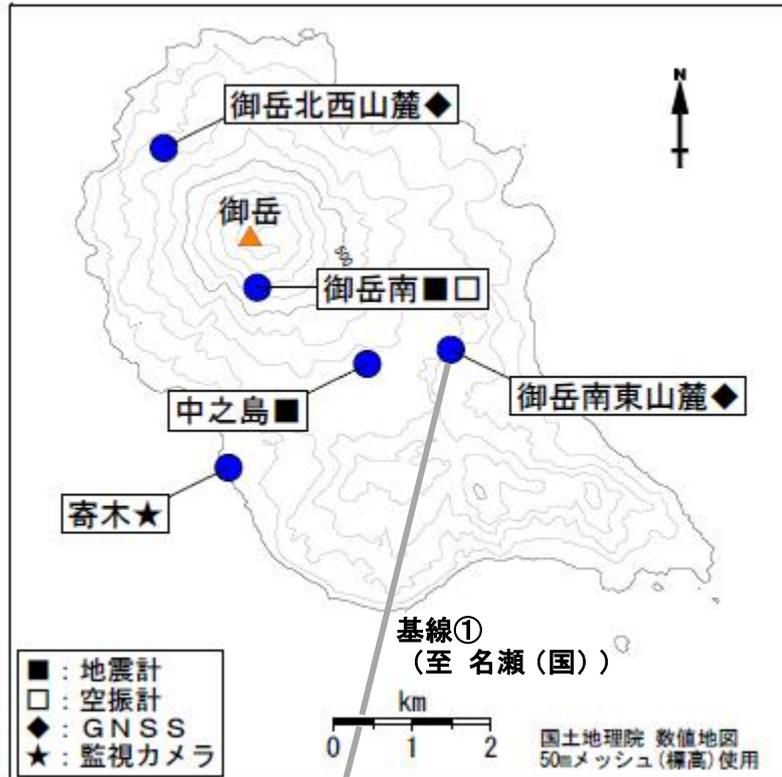


図6 中之島 観測点配置図とGNSS連続観測の基線番号  
(国) : 国土地理院

表1 中之島 気象庁(火山)観測点一覧(緯度・経度は世界測地系)

測器種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		緯度 (° ' )	経度 (° ' )	標高 (m)			
地震計	御岳南	29° 51.22'	129° 51.49'	688	-1	2018.1.20	
空振計	御岳南	29° 51.22'	129° 51.49'	688	1	2018.1.20	
GNSS	御岳南東山麓	29° 50.80'	129° 53.01'	276	5	2018.1.22	
	御岳北西山麓	29° 52.19'	129° 50.73'	261	1	2018.1.23	
監視カメラ	寄木	29° 49.97'	129° 51.25'	22	8	2003.3.28	